

福島県PTA連合会会報
第108号_H31.03.08

福島県PTA連合会



PTA ふくしま 第108号

県連P活動スローガン 子と親とが 共に育つ PTA活動を

編集：調査広報委員会 印刷：泉印刷所

「地域の人材」になってほしい！



福島県教育庁参事兼社会教育課長
菊池 篤志

「地域の人材が乏しい」
「地域の人材の高齢化」
「地域の人材の発掘・育成の必要性」
社会教育関連の会議・研修会等に出席する度に耳にする言葉です。
「人材」とは、辞書で引くと、「才知のある人」「役に立つ人」とあります。
本課で行っている県の社会教育委員の会議において、人材の新たな発掘について次のような意見が出ました。
「社会に貢献したいと考えている人で、専門的な知識・技能を身につけている人もいると思うが、そもそも、私には特に専門的な技能もなく、社会に貢献したいという思いだけで始めた。」高い専門性を求めたら、社会貢献の意識が高くて、一歩を踏み出せないのではないかと。というものでした。
辞書にある「才知のある人」、つまり、専門的な知識・技能を身につけている人は、社会からのニーズは高いと思います。しかし、社会に貢献しようとする意志がなければ、それを活かすことはできません。まずは、社会貢献に向けた強い意志をもつことが、何よりも「役に立つ人」の実現につながるのです。
PTA会員の皆さんは、学校に対して貢献する様々な活動を通し、同時に社会への貢献も果たしてきました。そしてその中で「もつと広く、社会へ貢献したい」と心を熱くされた方も多くはないかと思えます。
それらの経験を活かし、「地域の人材」として活動してみませんか。そんなに難しいことではありません。「地域の人材」とは、「役に立つ人」「社会に貢献したいという意志のある人」なのです。あなたなら、きつと良き「人材」になれると思います。

紹介 県P連 1年間の歩み ～こんな活動をしています～



6月 第1回理事会



10月 福島県PTA研究大会喜多方大会「全体会」



10月 福島県PTA研究大会喜多方大会「分科会」



9月 母親代表者懇談会



9月 母親代表懇談会



第42回子どもの防災習字・ポスター展

もくじ

福島県教育庁参事兼社会教育課長あいさつ	… P 1
特色あるPTA活動	… P 2・3
日本PTA研究大会新潟大会報告	… P 4
県教育長との懇談・要望	… P 4
第42回子ども防災事故防止 習字・ポスター展	… P 5
事務局からのお知らせ	… P 6

～30年度表彰団体から～

いわき市立高野小学校 PTA
いわき市立内郷第三中学校 PTA

PTA 会長 岩 崎 秀 之

受賞を機に考えること

本校 PTA は、昭和六十年に高野小と内郷三中が共同で教育に当たることになった新校舎落成を機に、小中合同の PTA 組織として誕生しました。昨年十一月、PTA 発足以来初の「日本 PTA 全国協議会会長表彰」をいただくことができました。これは、長年にわたって活動に参加してきてくださった保護者の皆様、学校を支えてくださった地域の皆様のおかげと深く感謝いたします。

本 PTA は、加盟件数が六十七戸の小さな組織ですが、子どもたちが小・中学校に在籍する九年間、同じ PTA 活動に参加し続けます。なんと十一年も会長職を勤める活動（今年度は、体育館耐震工事のために中止）。映画鑑賞の他に、ジャンケン大会や夜の学校探検等を実施し、学校のみならず地域の一大イベントとなっている。さやなぎ祭：毎年十一月（今年度は六月）の土曜授業日の午後実施している PTA 主催のゲーム大会。おにぎりや玉こんを販売しながら、保護者が考えたゲームやカード作りなどの製作を行っている。子どもたちが楽しみにしている人気の年中行事となっている。こうした活動を通して、子どもたちの健やかな成長を促しながら親・地域と子どものふれあいを深める活動に取り組んで参ります。



福島市立清水小学校父母と教師の会

会長 鈴木 圭 市

創立130周年を迎える清水小の教育

本校は、福島市北西部、飯坂線沿いに位置する児童数四百六十六名の学校で、十月に創立百三十周年記念式典を実施いたしました。本会は、地域との結びつきを深めながら、清水っ子のために次のような活動を行っています。

地域懇談会：清水地区健全育成推進会及び清水中学校と連携しながら、夏休み初めに行う地域の方との教育懇談会。毎年テーマを決め、教師、保護者、地域の方々が、清水地区の教育について熱く語り合う場となっている。



特集

特色あるPTA活動

大玉村立大山小学校 PTA

PTA 会長 甲野藤 広 明

『家庭の教育力を高めるPTA活動』

本校は安達太良山の裾野に広がる農村地帯に位置する児童数二百十九名、会員数百七十九名の小学校です。

さて今回は本会の取組の一つである「親子チャレンジキャンペーン」をご紹介します。この活動は、子どもの学習環境を改善することにも、家族との関わりの時間を生活に位置付けるという目標のもと、読書や料理、運動等、各家庭において親子で一緒に行う活動を決め、一定期間取り組むというものです。この取組をおして、子どもだけでなく大人自身もテレビやゲーム、スマホなどに浸りきった生活を見直し、それらに費やしていた時間を家族と一

緒に過ごす時間に変えた様子や、規則正しい生活ができるようになった等の感想が多数報告されました。

本会ではこの他にも「マイおにぎりデー」等の取組を年間を通して積極的に進めています。家庭の教育力は一朝一夕には高まりませんが、これらの取組で得たものを各家庭が継続して取り組んでいくことが重要になってきます。今後も、保護者同士のつながりを大切にしながら、これからの時代を担う子どもたちの健やかな成長のために、家庭の教育力を高めていくことができるよう、PTAとしてできることに積極的に取り組んで参りたいと考えています。

【写真：早起き！】 6年生
私は、早く、早起きができない人なので、毎朝のチャレンジキャンペーンで、少しは早く起きることを頑張っています。

【夕食後におしゃべりタイムをつくる】 6年生
夕食後におしゃべりタイムをつくることで、より家族で話し、学校で学んだ出来事などの話題で、楽しくおしゃべりタイムが過ごせました。

【毎日、合計1時間読書する】 6年生
前は週当たりで読む本が1冊程度でしたが、今は毎日1冊以上読むようになりました。読書の楽しさを知ることができました。

【親子でそろそろ、月曜日にチャレンジ】 6年生
自分から「早起き」を頑張ることに挑戦して、早起きで学校に行くと、朝の準備が楽になりました。



田村市立西向小学校父母と教師の会

会 長 佐久間 浩 寿

地域全体で支えたPTA活動

本校は、創立百四十一周年を迎える歴史と伝統のある学校です。六十二名の児童が兄弟姉妹のように仲良く学校生活を送っています。本会は昭和二十二年に設立され、七十年以上活動が続けてきました。昭和六十年からは、学校に子女がいる家庭をPTA正会員、いない家庭を準会員とし、地区全体でPTA活動を支えています。今年度は、次のような活動に取り組んできました。

① 地域と学校が一体となった連合運動会への全面的な協力
② 保護者輪番制による毎朝の交通指導への協力
③ 心肺蘇生法研修会
④ 夏祭り「わんぱくフェスティバル」の企画・運営
⑤ 方部対抗球技大会の開催
⑥ 小学校区内の危険箇所点検
⑦ 年二回の奉仕作業
⑧ 年一回の会報発行

また、「二人一役」を合言葉に正会員全員がPTA専門委員として活動しており、一人一人の参画意識が高いことは本会の特徴の一つです。地域・保護者・学校が一体となって活動を行ってきましたが、西向小学校は来年度から隣接校と統合するため、本会も活動を終えることとなります。これまで本会の活動を支えてくださった全ての方々、心より感謝申し上げます。



大会レポート

日本PTA研究大会新潟大会

報告者 副会長 箱崎 洋 一



第六十六回日本PTA全国研究大会新潟大会は、平成三十年八月二十四日・二十五日の二日間、新潟県を会場として開催されました。大会スローガンを「教育は未来を拓く 新潟発 米百俵の精神！～新潟に集い、語ろう 未来のひとづくり～」を掲げ、各テーマに沿った十の分科会を各会場にて開催されました。私は米鷲メッセにて「地域学校協働推進のためにPTAが果たす役割」を研究課題とした特別第二分科会に参加しました。基調講演者として文部科学省PTA等共済室長 西川由香氏の講演のもと、ワールドカフェ方式を用いた中、全国各地のPTA

A会員と意見交換を行いました。特に地域コミュニティスクール（学校運営協議会制度）について話し合われました。PTA会員や活動とも違い、授業の一環を企画、運営する内容や地域を巻き込んだのPTA活動など学校、地域、PTAで行う新たな学校づくりについて話し合いました。現在の社会環境を考えても今後必要不可欠な内容であると感じました。

全体会では講師として俳優 高橋克実氏を招き、「夢を追いかけてつかんだ 俳優人生」を演題として幼少期から現在に至るまでの両親との思い出や苦労話を楽しく話されました。

「米百俵の精神」「百俵の米も食べばたちまちなくなるが教育にあてれば明日の一万万俵となる」と藩士を論じ救援米を売り国漢学校を建て故郷の未来を教育に託した小林虎三郎の想いが伝わる新潟の地で名物「へぎ蕎麦」を堪能し二日間の有意義な研究大会を終えました。次年度は兵庫大会、楽しみです。



県教育長との懇談・要望

去る、一月二十三日、本会を代表し、菅田会長以下七名で県教育委員会を訪れ、鈴木淳一教育長様へ要望書を提出してきました。提出後、教育長様他関係者（各課担当者）の方々と懇談をしました。懇談では、菅田会長より要望事項について具体例を交えながら説明があり、それに対し教育長様より一つ一つ丁寧な回答を頂きました。福島県としての取組や、これからの方向性、そして連携のあり方について意見交換を行うことができ、有意義な時間となりました。



要望事項

- 1 不登校やいじめ等、心に不安や悩みを抱える子どもたちへの支援のために
スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの継続配置、手厚い配置について、今後も十分な体制と人員確保をお願いしたい。
- 2 教職員の確保について
少人数教育の実施により、個に応じたきめ細かい指導ができていると考える。これを継続するためにも、県で推進している少人数教育の継続をお願いしたい。
また、学校教育の充実のためにも教職員の確保が絶対条件だと考える。教職員数の確保をお願いしたい。
- 3 特別な教育支援が必要な児童生徒の指導の充実のために
学校生活において特別な支援を必要とする児童生徒が増えている。県教委として、教職員対象の研修の充実やさらなる個に応じた指導が可能となるような指導体制、人員の確保をお願いしたい。
- 4 過酷な状況に置かれている子どもたちのために
温暖化の影響からか、暑さ対策が急務であると考えている。普通教室へエアコン設置だけでなく、特別教室・体育館等への設置についてもご配慮願いたい。
- 5 教職員の多忙化解消のために
勤務時間数の縮減等教職員の多忙化解消に向け具体的な施策が講じられ効果が表れてきている。今後も子どもたちと向き合う時間確保のため継続してお願いしたい。
- 6 子どもたちの安心・安全確保のために
通学路における危険箇所の点検や撤去、不審者対策等、子どもたちの安心・安全を守るために取り組んで頂いているが、点検箇所の整備改善については、今後、更なる取り組みが必要であると考えている。県として関係部署と連携を図り通学路の安全確保をお願いしたい。

第42回子どもの災害事故防止 習字・ポスター展

四十二回を数えた今回も、温かいご支援とご協力を頂き開催できたこと、厚く御礼申し上げます。関係の先生方のご理解・ご協力に感謝いたします。

審査の先生方（敬称略）

○習字

丹治 英郎（元福田小学校長）
鈴木 幸子（元蓬萊小教諭）
丹野 栄（元杉田小学校長）
○ポスター
土屋 悦男
（元福島第三小校長）

平小
さか
すすきはな

▲小1年 平一小 鈴木初奈さん

白河小
湖水
室井楓伍

▲小5年 白河二小 室井楓伍さん

若松二小
整理
歌川さくら

▲中3年 若松二小 歌川さくらさん

習字の部入賞者

▼小学校の部

◆最優秀賞《一年》鈴木初奈（平一）《二年》諸橋紗和（白河二）《三年》室井悠伍（白河二）《四年》前林里央梨（富田東）《五年》室井楓伍（白河二）《六年》黒江ゆり香（福大附属）

◆優秀賞《一年》緑川寧桜（白河三）田崎乙羽（滑津）岩塚結咲（夏井一）《二年》谷ヶ城 玲（筑川）木村泰己（城西）渡部向日葵（坂下南）《三年》武田優那（須賀川二）佐藤真緒（小名浜一）石川 果（瀬上）加藤聡（棚倉）鈴木紗菜（湯本三）《四年》島原希音（関辺）菅井惇平（荒館）丹治夏帆（福大附属）長田美咲（滑津）佐藤和空（瀬上）《五年》新田晴陽（船引）渡辺真麻（福大附属）谷ヶ城奏（筑川）木村心音（夏井一）馬場彩菜（富田東）《六年》鈴木優歩（鶴城）加藤葵偉（富田東）迎 彩花（石川）阿部七海（瀬上）若林翔花（坂下南）

◆優良賞《一年》佐久間春香（小野田）平野莉子（船引）佐川莉声（石川）村田混英（みさか）《二年》鈴木飛輝（湯本三）矢吹理桜（石川）増井一真（平一）

▼中学校の部

◆最優秀賞《一年》小野寺陽泉（西郷二）《二年》芳賀岳斗（若松五）《三年》歌川さくら（若松二）

◆優秀賞《一年》齋藤舞依（大玉）《二年》本田結桜（錦）《三年》小熊文恵（一箕）

◆優良賞《一年》横山なぎ子（若松三）《二年》星晴夏（若松一）《三年》我妻咲香（白河二）

ポスターの部入賞者

▼小学校の部

◆最優秀賞《一年》加古悠真（須賀川二）《二年》山寺咲翠（須賀川二）《三年》金澤怜也（石川）《四年》原明日奏（棚倉）《五年》山本真紀（鶴城）《六年》迎 彩花（石川）

◆優秀賞《一年》鈴木菜結（滑津）《二年》田中瑞希（須賀川三）《三年》加古陽向（須賀川二）《四年》先崎こころ（柏城）《五年》古市陽菜子（須賀川二）《六年》田中裕斗（須賀川三）

◆優良賞《一年》南 咲衣（棚倉）《二年》戸田純乃（姥堂）《三年》石井千尋（白河三）《四年》小野菜々子（須賀川二）《五年》根本瑛心（浅川）《六年》伊藤陽菜（釀芳）

▼中学校の部

◆最優秀賞《二年》丹野彩花（川俣）

◆優秀賞《二年》岡部陽菜（石川）

◆優良賞《二年》常盤萌笑（浅川）



▲小3年 石川小 金澤怜也さん



▲小4年 棚倉小 原明日奏さん

安全互助会から

一月に平成三十一年度安全互助会への加入案内をしております。

◎今後の日程等

○加入申し込み締切

……三月十一日(月)

※まだのところがありませんでしたらお急ぎください。

○「会員証」「事務取扱概要」の送付……四月中

○会費納入……五月末日

○会費引落とし

……六月三日(月)

※ただし、口座引落としの手続きをしている学校・園のみ

※新たな会費の口座引き落としを希望される場合は、四月中に本会宛にご連絡ください。

◎事故報告について

① 傷害事故、賠償事故の報告については、ケガをした日・事故が発生した日が基準となります。

三十一年度三月三十一日までに発生した事故については、三十一年度の会員証番号・加入コース・学年で報告してください。

② 三十一年度四月一日以降のケガについては、三十一年度の会員証番号となります。

③ 平成三十一年度の「傷害事故報告書」と「賠償事故報告書」の様式が一部変更となります。四月に「会員証」といっしょに新しい「事故報告書」を送付いたしますので、確認の上本会宛に報告願います。

◎保険金請求について

学校・園からの事故報告に基づき、保険会社から請求者である保護者宛に請求関係の書類一式が送付されます。(共栄火災海上保険株式会社名で発送されます。)

治療終了後、保護者様より速やかに保険会社へ保険金請求書類を提出していただくこととなります。

現在、十八歳未満の子どもの医療費は無料となっておりますが、本制度は、あくまで保険制度であり、医療費とは別に支払われるものです。

面倒がらずに請求手続きをするように、担当の先生方からも、保護者の方に伝えてください。

編集後記

今年度も会員の皆さまのご協力・ご支援を賜り充実した、実り多き一年を過ごすことができました。ありがたうございました。震災から八年が経過しようとしています。未だ休業中の学校や、避難先で再開している学校もあり、福島県の復興はまだだと思っております。また、各地域で少子化から、学校の統廃合も進み教育環境も様変わりしていく地域もあります。子どもたちは、家庭での教育や地域での様々な人たちの関わりや体験を通して心豊かに育っていきます。学校・家庭・地域を繋ぎ、子どもたちに素晴らしいふるさとを残し、継承させるのも大人の役割だと思います。子どもたちの健やかな成長を願い、大人としての役割を果たしていきたいものだと思います。

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言! 共栄火災

サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、
安心のチカラでそっと支えるサイ。
共栄火災のサイ吉です。

